

研修会報告

令和6年10月19日

文責：平田和成

研修会テーマ「生化学・免疫検査の基本を学び直す」

開催日時 令和6年10月19日（土） 14:00～16:00

会場 Zoom ウェビナーを用いた Web 開催

司会 仙台オープン病院 鎌田将矢 技師

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 22名 賛助会員 6名

合計 28名

講演1「生化学分析装置の基本原理」

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 検体検査システム事業部 安東大輔 先生

講演2「免疫分析装置の基本原理」

アボットジャパン合同会社 窪田智弘 先生

講演3「生化学免疫検査の見方と遭遇する異常データ」

国立病院機構 仙台医療センター 臨床検査科 播磨晋太郎 技師

16:00 終了

内容

今回の生物化学分析部門は「生化学・免疫検査の基本を学び直す」というテーマで、普段何気なく使用している生化学・免疫分析装置の基本原理を復習しながら、検査データの読み方や遭遇する異常データとその対応について学ぶことができる基礎的な内容で企画、開催した。

講演1では、生化学分析装置の基本原理を中心にキヤノンメディカルシステムズ株式会社検体検査システム事業部、安東先生に講演いただいた。検査依頼や採血、遠心分離といった基本的な内容から生化学分析装置の詳細な構造・原理まで、臨床検査領域全体を含めた検体検査について確認することができた。また、異常値の考え方については「臨床的異常」、「分析前工程異常」、「分析異常」の場合分けを丁寧に解説していただいた。

講演2では、免疫分析装置の基本原理をアボットジャパン合同会社、窪田智弘先生に講演いただいた。イムノアッセイの基本となる「免疫反応」や「抗原抗体反応」について、具体的な模型や、理解しやすいイメージを用いて解説いただいた。標識物質の歴史や原理名の変遷、イムノアッセイ抗体開発についても丁寧に解説いただき、免疫検査の歴史を知ること

ができた。

講演 3 では、生化学免疫検査の見方と遭遇する異常データを国立病院機構仙台医療センター臨床検査科、播磨晋太郎技師に講演いただいた。異常データに遭遇した際に立ち止まって考えるべきことをまとめて解説いただいた。信州式 RCPC を活用した検査データの解釈や結果報告時の具体的な注意点を、自施設の検査システムとともに紹介いただいた。血清カリウムについては事例を用いて具体的に解説いただき、検査前手順や検体性状、電解質データの確認方法をまとめて学ぶことができた。また、異常データと遭遇した時に確認すべき分析装置のタイムコースについても詳細に解説いただいた。

今回の研修会も Zoom ウェビナーを用いた Web 研修会であった。アンケート結果も踏まえながら、今後も宮城県臨床検査技師会員が求める研修会を企画したいと考えている。